

Zoomで進めるサークル活動

一 私たちのサークルのこと

まず、私たちのサークルについて簡単に紹介します。名称を「にいがた国語の会」といいます。会は、今から四三年前、集団づくりの実践でも有名な故・大西忠治氏を招いての国語研究会を契機としてスタートしました。どうやって国語の授業をしたらよいか分からず途方に暮れていた新採用の私にとって、大西さんとの出会いは衝撃的なものでした。以来、ずっと私は大西さんの後を追ってきました。

原則として毎月一回の定例会を四〇年以上続けてきました。残念ながら大西さんは一九九二年に亡くなつてしまいました。そこで、それからはその時々の研究

内容によつて様々な方の指導を仰ぎながらも、基本的には大西さんの指導法を追求してきました。

現在は、五十嵐を含めた五人で月一回の定例会をZoomで行っています。基本的には、メンバーのうちの誰かの提案・報告をもとに討論しながら研究を進めています。

メンバーは以下の通り。山形県鶴岡市の石塚俊朗さん、新潟県長岡市の丸山義昭さん、山梨県南アルプス市の井上秀喜さん、岡山県倉敷市の長畑龍介さん、そして新潟市の五十嵐です。八〇代の長畑さんが最高齢で、六〇代前半の井上さんが最も若いメンバーとなります。丸山さんは大学講師。井上さんと五十嵐の二人は中学校講師。長畑さんと石塚さんは元中学校教師で



したが、現在は完全にリタイアして地域でさまざまな活動に参加しています。共通点は皆、大西さんに大きな影響を受けた教師だということです。

ちなみに、これまでに刊行したサークルの著作は以下の通りです。

- ・『中学校「詩」の読み方指導』（明治図書・一九九四年）
- ・『詩の技法』をどう教えるか』（小海永二監修・明治図書・一九九七年）

- ・『阿部昇著「授業づくりのための説明的文章教材の徹底批判」を徹底批判する』（私家版・一九九八年）

- ・『小学校の詩30編をどう教えるか』（明治図書・二〇〇〇年）

- ・『説明的文章をどう読ませるか』（私家版・二〇〇四年）

- ・『説明的文章の構造よみとは何か―その理論と実践―』（私家版・二〇〇七年）

- ・『文学作品の線引きとは何か―展開部以降の線引きの理論と実践―』（私家版・二〇一一年）

二 なぜZoomなのか

一番の理由は新潟県内の会員がほとんどいなくなっ

たことです。他の民間サークルと同様、私たちの会もなかなか新しい会員を獲得できないという悩みを抱えてきました。その一方、今までの会員が次々と定年を迎えて退職してサークルを去っていったため、会員は減少するばかりでした。前述した、会員の高齢化はその必然的な帰結です。

それなりに情宣したり研究会を開催して勧誘したりもしたのですが、新しい人が入ってくることはほとんどありませんでした。その結果、県内のどこかで会議を開いても集まるのは二・三人という状況になってしまったのでした。折しもコロナ禍、多くの研究会や集会は中止となつてしまい、私たちのサークルも「風前の灯火」状態に陥つてしまいました。

しかし、そこに「Zoom」という救世主が現れたのでした。私たちは、直接集まるという発想を転換して、Zoomによるサークル開催を始めることにしたのでした。交流のあった県内外の教員たちに声をかけ、現職であるかどうかもこだわらず、大西方式の国語教育指導法の追求に意欲を持った人たちに参加を呼びかけたのです。それが二〇二一年のことでした。その結果、集めたのが前述の四人でした。

県内で直接集まるサークルが会員不足で開催できないため、苦肉の策として始めたZoom方式でしたが、予想以上に順調に行うことができています。資料は画面共有で一緒に見ることができずし、音声が開くえにくいということもあります。対面に比べて不便なことはほとんどないといつていいと思います。

何より交通費や移動時間、会場費が不要であることは大きなメリットです。前述の五人がもし直接会うということになれば、おそらく場所は東京ということになると思いますが、それぞれの経済的負担は何万円にもなり、往復時間も数時間以上になるでしょう。もし宿泊することになれば、さらに宿泊費も加算されます。これでは現実的に月一回のサークル開催は不可能でしょう。Zoomの運営費にサークルとして年間二万五千円ほどかかりますが、頭割りにすれば一人年間五千円、月一回の経費ということになれば四百円ほどです。大変な経費節約です。

コロナ禍はさまざまな災厄を社会にもたらしましたが、Zoomの普及は数少ない収穫の一つだと言えるでしょう。

三 現在、何をやっているのか

最近主に、大西さんの説明的文章の指導法について研究を進めています。中でも中心的に取り扱っているのが記録文の指導です。大西さんは、説明的文章を、記録文・説明文・論説文の三つに分けました。それぞれの定義は次のようになります。

- ・ 記録文↓時間の順に物事を記録した文章。報告文もこのタイプに入ります。
- ・ 説明文↓時間の順以外の論理で述べられた文章のうち、定説について説明した文章。
- ・ 論説文↓時間の順以外の論理で述べられた文章のうち、仮説を論証した文章。評論や主張文・意見文もこのタイプに入ります。

私見になりますが、三つのうち一番研究や実践が進んでいないのが記録文だと思います。そこで最近、記録文の構成をどのようにして読み取り、どのように要約して、その過程でどのように文章を吟味していくかを研究しています。（国語教育のなかみを報告する文章ではないので、これ以上詳述しません）。

現在の見通しとしては、来年か再来年には研究の成

果をサークルの著作として出版したいと考えています。

四 しかし、Zoom会議では

できないことも……

Zoom会議にほとんど不便は感じないものの、一抹の寂しさを感じることがあります。当たり前のことですが、Zoomは時間どおりにキッチリ始まり、時間どおりにキッチリ終わります。時間の無駄はありません。とても効率的で合理的です。

でも何か寂しい。そこには思わず早く着いてしまった者同士の雑談とか、帰りの電車時間までまだ間がある者同士がちよつと一杯飲みながら語らうとか、そういったことが一切ないのです。人間味がないと言っていると思います。寂しさ、ものたりなさはそのからくるのでしょうか。

バカげたことを言っているのは分かります。老人の愚痴かもしれません。しかし、サークル活動はそのような一見無駄に思える時間も魅力の一つだったのではないのでしょうか。

これは教育の世界だけでなく、社会全体にも言えることなのでしょう。合理的・効率的になり過ぎて、すっ

かり味気ない世界になってしまいました。そう感じているのはおそらく私だけではないでしょう。

五 サークルの課題とお願い

最後に、私たちのサークルの課題とお願いを記します。

とにかく若い会員を増やすこと。もとい、若くなくとも構わないので一人でも二人でも会員を増やすこと。これが切実な課題です。このままではサークルは消滅してしまうからです。

そこで、この場を借りて呼びかけます。国語の授業にお悩みの方、関心のある方、私たちのサークルに参加して研究と実践を進めてみませんか。あるいは、国語の授業に困っている方をご存じの方、ぜひ私たちのサークルを紹介していただけませんか。会員はすべて四〇年以上の経験有する超ベテラン教師です。おそらくどんな疑問・質問にもお答えできると思います。

私自身、四十年以上の実践を踏まえて、私たちのやり方なら、確実に子どもたちに国語の力をつけることができますと確信しています。目の前の子どもたちが自分の指導によって力をつけていく喜び。そんな喜びを

味わってみませんか。

連絡をお待ちしています。

〈連絡先〉

五十嵐 淳（いからし あつし）

〒九五六―〇一一三

新潟市秋葉区矢代田一五四―一七

TEL 〇二五〇―三八―二八七一

Mail atushi.ika@gmail.com

（いからし あつし いがた国語の会）



同級会 その2

二日目は朝食後、各自、自家用車やマイクロバスで故郷に向かった。小生は友人の車に乗せてもらった。まず、故郷の温泉街でお土産を買い、その後、小学校跡地に行つて、60年ほどの昔に思いをはせた。あの頃は急に思えた坂道が、緩やかに感じられた。あの頃は長く思えた道が、短く感じられた。

気持ちのよい陽ざしのなか、登下校に何度も通つた道をドライブした。新緑の山々を眺めながら「ここに生まれてよかったな」とつぶやいた。

友人も「うん」と言つた。「この土地に生まれて本当に幸せだな」とことばを返した。「……………」。

ここに生まれたから、陽気な、やさしい同級生たちに出会えたのだ。小学校に入つた年からいままで、仲間として一緒に年をとることができたのだ。

「ふるさとこの山に向かひて言ふことなし

ふるさとこの山はありがたきかな」（石川啄木）であつた。

（小野塚）